

心は花

見ているものに似ている心

先日体育大会は、暑い中にも関わらず多くの保護者の方々に生徒の姿を見守っていただき、ありがとうございました。開閉会や各競技等、生徒たちの姿はいかがでしたでしょうか？

生徒たちも、保護者の方々、地域の方々の声援のおかげで、気持ちを込めて頑張ったことが「感動」や「自信」になったようです。

一年生からは「自分たちもこんな先輩になりたい。」と尊敬から憧れになっていました。そんな声が出てくるということは、3年生や各リーダーがそれぞれの持ち場でしっかりと責務を果たしたと言えるでしょう。また、1、2年生はフォロワーシップが高まっているように感じます。このようなことが西南中の伝統として今後も続き、全校生徒、そして学校活動が「躍進」していくことを願っています。

さて、話は変わりますが、西南中の生徒指導行動目標は、「爽」「研」「美」です。それぞれのスローガンを具現化し、レベルアップを目指しています。第2号でもお伝えしましたが、「美」において掃除に力を入れて取り組んでいます。なぜ「掃除」にこだわるのか、「人は日頃見ているものに心も似てくる」ものだからです。汚いゴミだらけの所に毎日いると、汚いことが当たり前になります。それが「汚くても平気」な感覚になり、「ゴミだらけの所にいるのが平気」になります。

それだけならまだしも、困ったことに、美しいものを見ても「美しい！」と思えない人になってしまいます。汚いもの、美しいもの、どちらも同じだという感覚になってきてしまうのです。

だから、自分の心を美しくするには、自分の生活環境をきれいに

することが大事になってきます。自分の部屋、教室、学校…自分の生活環境をいつもきれいに整え、それに見慣れてくると、自ずと心も整ってきます。そんな人はちよつとした「美しい」「きれい」に気づけるようになり、見過ごしがちな些細なことでも感動したり、「幸せ」を感じられたりするようになります。人は感動すると、心が「明るく」なります。感動して心が明るく晴れやかになる人は、あまり疲れを覚えないので、多少きついこと、つらいことにも耐えられるようになります。

一方で、「汚くてもきれいで別」に…という人は、何を見ても感動せず、心が疲れやすく、ちよつとした困難を「がまん」する力が高まりません。がまんできない人は、目の前の課題や困難をクリアせず、逃げ出していくものです。

今週の生活目標は、「正しい身だしなみで学校生活を送ろう」にしました。体育大会を終え、それまでの日常の生活に戻るときに、身近な生活環境を整える第一歩が「身だしなみ」になります。

「身だしなみ」を乱していると、そこから「心」が乱れ始め、周りに落ちている「ゴミ」を見ても、平気になってしまいます。同じように、色んなことが乱れていることに何の違和感も覚えなくなります。

「タスキ忘れても…」「名札を付けなくても…」「ベルト着けて無くても…」「ヘルメットのあごひも外しても…」「これぐらいよからうが、だんだん広がっていく、シャツのボタン外して、シャツの裾をスボンから全開に出して、スカートを短くして、等々、それから全てが乱れてしまい、心が乱れ、言葉遣いも乱れ、生き方も乱れ、そんなマイナスな流れを自分ではブレーキをかけることができなくなってしまうのです。

ですから、タスキ一つ、名札一つ、ベルト一つ、…小さな一つをおろそかにしてはいけません。「身だしなみ」という自分の一番身近な生活環境から整えていくことがとても大切になるのです。「身だしなみは、心の鏡」そのものなのです。